

事業報告書

事務局経営戦略課

1 法人の管理運営事業

定例評議員会を1回（6月24日）、定例理事会を2回（6月4日・3月17日）のほか、臨時評議員会を1回（3月27日）開催した。

指定管理業務の円滑な運営のため、宮崎市、宮崎市教育委員会の各担当部署並びに各施設との綿密な連絡調整を行った。

また、公益法人として、定款及び規則に定めた人事・財務などの所掌事務を適切に行った。

2 研修事業

内部研修・・・職員の資質向上のため、年間研修計画に基づき、研修を実施した。

階層別研修、特別研修（情報モラル研修、手話研修）などを実施した。

研修回数 18回 職員参加者数 延べ 240人

外部研修・・・協会各施設の抱える課題を調査研究し、運営に役立てるため先進地視察を行なった。また、顧問会計士を招聘しての講習会や、宮崎市消防局が実施する防火管理講習に参加した。

3 健康管理事業

職員の健康管理のため、職員から産業医への健康相談ができるような体制を整え、長時間労働者への健康相談の勧奨のほか、各施設で合計6回の健康相談を計画した（相談希望者なし）。

また、産業医による職場巡回（宮崎科学技術館）により、職場環境の把握に努めた。

4 その他

定款に定める目的を達成するため、協会横断的な以下の事業を行った。

（1）待遇の改善

職員の待遇改善を図るため、給与改定の検討を行い、契約職員と無期転換職員の給料表や昇給基準等を見直し、改定した（令和4年4月1日施行）。

また、育児介護休業法の改正により、育児休業、介護休業の取得要件が緩和されることに伴って、育児休業等に関する規則及び介護休業等に関する規則の改定を行った（令和4年4月1日施行）。

（2）協会機関誌「まなぶんか」の発行

1市2町（宮崎市・国富町・綾町）に向け、科学や歴史・文化に関するタイムリーな話題を随時提供しながら、季節ごとのイベントの紹介や、イベントの背景や見どころなどを詳しく紹介する協会機関誌を年4回発刊し、宮崎市、県内の教育委員会・小学校・中学校・各支援学校・博物館等施設、1市2町の幼稚園・保育所等・宮崎銀行各支店・小児科医院、宮崎科学技術館「友の会」会員、入館者等に配布した。

A4版8ページ、カラー印刷、季刊で各6,000部（年4回）

(3) 公益財団法人宮崎文化振興協会モニターによるモニタリング

来館者に限らず、広く地域住民のご意見をお伺いし、次の事業展開や施設管理に反映させるため、1市2町の在住者を対象にモニターを公募し、アンケート協力や協会への提言等、協会の施設運営への意見をいただいた。

なお、意見交換会を11月と3月に2回実施し、各種事業や各施設の改善点等を協議した。

意見交換会 2回 モニター人数 20人

(4) 子どものための音楽会の開催

様々なジャンルの音楽の生の演奏や音色に触れ、乳幼児の情操を育むため、演奏会を、複数の施設を管理運営する利点を生かし、年間を通して各施設において開催した。

なお、大淀川学習館で予定していた音楽会は、新型コロナ感染症拡大防止のため中止となった。

実施回数 3回 参加者数 延べ 212人

(5) 1日子ども館長の実施

子どもたちが「1日子ども館長」として「職」を体験することで、「働く」という意識や当協会が広く啓発する科学・自然・歴史・文化に興味関心をもつとともに、将来の職業意識を醸成するため、当協会が管理運営する各施設において、科学・歴史・芸術文化分野の体験活動を実施した。

実施回数 4回 参加者数 16人

(6) 授業づくりサポート事業

学習学校教育支援の一環として、宮崎市・国富町・綾町の小学校理科担当教諭に対し、理科の授業づくりの全般のサポートを行った。また、各自の課題に応じて適切なサポートを行うことで、各学校における理科教育の向上に資する。

開催期日 令和3年12月21日（火）

開催場所 宮崎市立江平小学校 体育館

参加者数 144人

(7) 教育施設としての施設利用推進事業

令和2年度に改訂を行った冊子「授業に使える展示物～校外学習・出前講座等を充実させるガイドブック～」を、県内の小中学校に配布し施設活用のPRに努めた。

(8) 学術・科学技術・文化・芸術振興のための研究事業の実施

学術及び科学技術、文化等の普及・啓発・振興を図るとともに、職員の職務能力の向上のため、指定管理する施設の発展や業務達成に貢献できると認められる研究を実施し、その費用の一部又は全部を補助した。

また、令和4年2月25日（金）に研究事業成果発表会を開催し、応募研究の中から優秀研究を選出し、研究事業表彰式を実施した。

研究本数 9本 研究者数 延べ16人

宮崎科学技術館

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、令和3年度においても展示室、プラネタリウム事業等の円滑な運営を行うための保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	210日	プラネタリウム投映日数	209日
入館者数	70,204人	利用者数	31,562人
1日平均入場者数	334人	1日平均利用者数	151人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館 90日間

(5/3～5/31、8/5～9/30、1/22～2/13 の内、通常休館を除いた日数)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止によるプラネタリウム投映中止 90日間

(5/3～5/31、8/5～9/30、1/22～2/13 の内、通常休館による投映中止を除いた日数)

また、プラネタリウムは換気の時間をとるため、投映回数を減らして運営。

その他、各種イベントも臨時休館による中止、または入場を制限しての開催等を行った。

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	38,078人 (54.2%)
大人	32,126人 (45.8%)
合計	70,204人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	58,196人 (82.9%)
団体	12,008人 (17.1%)
合計	70,204人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内（宮崎市・国富町・綾町）

幼稚園・保育所等	1,933人 (27.8%)
小学校	4,370人 (62.8%)
中学校	318人 (4.6%)
高等学校	25人 (0.3%)
一般	314人 (4.5%)
合計	6,960人

・広域圏外（宮崎県内上記以外）

幼稚園・保育所等	462人 (9.6%)
小学校	3,280人 (67.9%)
中学校	630人 (13.0%)

幼稚園・小学校合同	45人 (0.9%)
小・中学校合同	40人 (0.8%)
一般	477人 (7.8%)
合計	4,834人

④ 県外団体利用内訳

中学校	85人 (39.7%)
高等学校	129人 (60.3%)
合計	214人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	1	85	39.7
四国	0	0	0
中国	2	129	60.3
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
海外	0	0	0
合計	3	214	100.0

⑥ 九州・沖縄内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	1	85	100
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	1	85	100.0

2 常設展示事業

世界に2基しかないアポロ11号月面着陸船原寸大模型をはじめとした大型の展示物の他、先端科学技術を集約した展示物は約100点にのぼる。来館者が体験を通して科学の不思議や自然の素晴らしさに気付くことに努め、科学に対する興味・関心を高めさせることができた。

本年度は、映像技術の最先端である4D-VR（2人乗り連動チェア）やVRゴーグル8台を設置したVR Worldコーナーを導入し、連日多くの来館者で賑わい、最先端の技術を体感できた。

3 教室事業

(1) 科学実験・工作教室

子どもたちに「科学する心」を育てるためのサイエンス教室や、高齢者と一般の人を対象にした「生きがい科学館」、子どもから大人まで楽しめるサイエンスショーや工作教室などを、JSC（教育ボランティア）や宮崎大学のフィールドワーク授業を受講する学生と共に実施した。

① チャレンジサイエンス	実施回数 18回	参加者数 延べ 2,706人
② ダ・ヴィンチ工房	実施回数 3回	参加者数 延べ 98人
③ 生きがい科学館	実施回数 6回	参加者数 延べ 65人
④ 不思議なサイエンスショー	実施回数 7回	参加者数 延べ 708人
⑤ 宮崎少年少女発明クラブ	実施回数 17回	参加者数 延べ 822人
⑥ どろだんご教室	実施回数 1回	参加者数 延べ 57人

⑦	科学技術週間工作教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	181人
⑧	自由研究サポート教室	実施回数	1回	参加者数	延べ	1人
⑨	なんでもサイエンス(インストラクター)	実施回数	10回	参加人数	延べ	684人
⑩	コスモランド教室	実施回数	2回	参加人数	延べ	366人
⑪	サイエンス親子学習教室	実施回数	1回	参加人数	延べ	18人

(2) プラネタリウム親子学習教室

学校での天文学習の補充と深化を目的に、小学4年生及び6年生向けの学習プログラムを行った。事後の感想も好評であった。中学生向けのプログラムは計画したが、新型コロナウィルス感染症の影響もあり中止となった。

実施回数	小学4年生対象	2回	参加者数	延べ	224人
	小学6年生対象	1回	参加者数	延べ	120人
	中学生対象	新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、休館中止。			

(3) 親子プログラミング体験教室

学習指導要領の改訂に伴い、昨年度から小学校で始まったプログラミング教育に関して、基礎から学ぶ機会を学校現場以外でも子どもたちに提供した。企画展「プログラミングを体験しよう」の時期に合わせて、初めてプログラミングに接する親子に向けて、身に付けておきたい技術（順次処理、条件分岐、繰り返し、変数、乱数）をしっかり学ぶ体験教室を実施した。

実施回数	小学3～6年生対象	12回	参加者数	延べ	289人
------	-----------	-----	------	----	------

4 プラネタリウム事業

九州最大級である直径27mのプラネタリウムに3万8千個の星々を映し出す恒星投映機や全天ビデオ投映システムを生かし、一般番組や学習番組の投映を行った。令和3年5月3日（月・祝）～5月31日（月）、8月5日（木）～9月30日（木）、1月22日（土）～2月13日（日）の期間、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、臨時休館となった。

入場者数	延べ	29, 129人
投映回数		593回

(1) 一般番組

・永久投映権をもっている番組

「星になったチロ」「オズのまほうつかい」「むしむし星空大行進」

「今夜銀河の片隅で」「DARK」「宇宙への旅」

「宇宙のエネルギー」「ピーターパン」「太陽」

・令和2年度から引き続き投映した番組

「クレヨンしんちゃん」「名探偵コナン1」「名探偵コナン2」

「ノーマン・ザ・スノーマン1」「宇宙への第一歩」「HAYABUSA2」

「クリスマスファンタジー」「えんとつ町のプペル」「こぐま座のティオ」

・令和3年度から投映した新番組

「宇宙兄弟」「名探偵コナン3」「忍たま乱太郎2」

(2) 学習番組

「ピーターパンとほしのくにへいこう」(幼児向け)

「スタジオ444」(小学4年生向け)「ポワンとフーニャンの宇宙調査隊」(小学6年生向け)

「この空に願いを込めて…」(中学生向け)

(3) 自主制作番組

「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」

(4) 星空教室

プラネタリウムホールを利用して、幼児から一般を対象に、季節の星座や神話、天文の基礎を紹介し、天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心をもってもらうよう努めた。

実施回数 10回 参加者数 延べ 480人

※ 5、8月は新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、オンライン配信。

(5) おはよう太陽・月の観望会

夏休み期間中に、午前中に見える日中の太陽・月を望遠鏡で観望した。日中の青空の中に見える白い月に、子ども達が驚く様子が見られた。

実施回数 2回 参加者数 延べ 60人

(6) スターウォッキング教室

宮崎市、国富町、綾町の団体を対象に、応募団体の希望の会場に出向き、天体の基礎的な学習と天体観察を行った。望遠鏡などを用いた体験から、天文や宇宙に興味・関心をもっていただくよう努めた。

実施回数 3回 参加者数 延べ 174人

※ 実施回数5回を予定していたが、2回は申込なしのため、中止。

(7) スターウォッキング in まちなか

中心市街地の活性化及び広報の場として、市街地（橘通3丁目交差点 MRTテラススタジオ前広場など）での観望会を計画した。

実施回数 1回 参加者数 延べ 42人

※ 実施回数4回を予定していたが、3回は新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、中止。

(8) キッズアワー

幼児向けのプラネタリウムとして、通常暗いプラネタリウムを明るくし、子どもが楽しめる内容の星や星座の話と、幼児向けの番組の投映を行った。

実施回数 11回 参加者数 延べ 1442人

※ 実施回数12回を予定していたが、1回は新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、中止。

(9) 特別投映

神武大祭の開催時期に合わせて、特別投映を行った。当館の自主制作番組「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」を投映し、合わせて天文と日向神話の親和性について職員が準備した映像等で解説を行った。

実施回数 6回 参加者数 延べ 165人

(10) 皆既月食観察会/部分月食観察会

宇宙・天文への興味・関心の向上、天文現象を身近に感じてもらうことを目的として「皆既月食」の観察会を5月26日（水）に計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、観望会を中止し、Instagramを使用したライブ配信を計画した。しかし、天候不良により配信できなかった。

11月19日（金）の部分月食観察会は、感染拡大防止の観点から規模を縮小して開催した。さらに、当日は観察会と同時にYoutubeによるライブ配信も行った。

実施回数 1回 参加者数 延べ 39人

(11) 星空継続観察事業「みやざき星空大調査」

環境省の推進する星空継続観察事業の一環として、星空観察を通じて光害（ひかりがい）や大気汚染等に気づき、環境保全の重要性について関心を深めていただくこと、良好な大気環境や美しい星空を地域資源（観光や教育）としても活用していただくことを目的に観察会を8月と2月に計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とし、職員のみで調査観察を行った。

入場者数 計 0人

5 文化振興事業

(1) 星空と音楽のタペ

宮崎出身者や現在宮崎で活躍している音楽家に活動の場を提供するとともに、市民文化活動高揚に資するため、プラネタリウムホールで7月に開催した。音楽の生演奏とCD音楽の解説という2部構成でのコンサートを実施した。

実施回数 1回 参加者数 延べ 120人

※ 9月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(2) キラキラ星空コンサート

幼児から高齢者までの幅広い年齢層に楽しんでいただくため、平成18年度からスタートしたコンサートであり、県内で活躍されている演奏家によるコンサートを実施した。

実施回数 2回 参加者数 延べ 364人

(3) 星空さんぽ in プラネタリウム

多くの市民がプラネタリウムをさらに利用しやすくするために、星空の生解説を含め、魅力的なテーマを設定した投映を行った。職員でテーマに合わせた映像や参加型の企画を準備し、来館者が、より星空に親しめる内容にした。更に、11月、2月開催分については、希望者に屋外で星空観望会も実施した。

実施回数 3回 参加者数 延べ 187人

※ 8月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(4) スターフェスティバル

多目的ホールを利用して、来館者を対象に、「みんなの空展」をテーマに、青空、夕焼け空、星空などについてのパネルの展示に加え、塗り絵コーナー、クイズラリーなど体験型の企画も導入した。天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心をもってもらえるよう努めた。

実施回数 1回（16日間） 参加者数 延べ 2,127人

(5) えほんの読み聞かせ in プラネタリウム

プラネタリウムホールの有効活用と子ども達の情操教育を目的として、幼児から一般を対象に、絵本の読み聞かせを奇数月に実施した。ドームシアターを利用して、絵本を大きく投映し、動画等の映像による演出をすることで、プラネタリウムホールを幅広く体感してもらうように努めた。

実施回数 4回 参加者数 延べ 274人

※ 5月、9月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

6 イベント事業

(1) 主催事業

①巡回展「超人のからだ－ウサイン・ボルト 史上最速のひみつ！－」

前人未到の記録を打ち立てたウサイン・ボルト選手は、どうして速く走ることができたのかを等身大パネルや世界記録を出した際の歩幅フットプリント（走る際の足跡）の再現などで、ボルトの“大きさ”を実感しながら、史上最速の知られざる姿に迫る展示を実施した。

開催期日 令和3年7月22日（木・祝）～8月29日（日）

※8月5日～29日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館。

入場者数 延べ 7,358人

②巡回展「はやぶさ2のミッションにチャレンジ」

小惑星リュウグウを探査し、石や砂などが入ったカプセルを地球に届けた探査機「はやぶさ2」の実績について、展示パネルによる説明やミッションという形で、実際に模型などに触れながら学ぶことができる巡回展示を実施した。

開催期日 令和3年 11月9日（火）～12月12日（日）

入場者数 延べ 14,168人

③巡回展「宇宙をさわる」

地球や、月、惑星などの太陽系天体の模型や「点図」、宇宙を観測する望遠鏡の立体模型、「点字」を用いた解説パネルなど、皆が触ることで理解しやすく、かつ、宇宙を身近に感じられる模型等を展示了。

開催期日 令和4年 1月12日（水）～2月20日（日）

入場者数 延べ 3,217人

※ 1月22日（土）～2月13日（日）は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館中止。

④こいのぼり掲揚式

近隣の幼稚園・保育所を招き、正面玄関前でこいのぼり掲揚式を行った。その後、プラネタリウム投映を観覧し、園児に用意した手作りのこいのぼりをプレゼントした。

開催期日 令和3年 4月9日（金）

参加者数 計 66人

⑤「科学と遊ぼう！こどもの日」

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、有料開館とし、こどもの日にちなんだ多彩な催しを計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館。

開催期日 令和3年 5月 5日（水・祝）

⑥リサイクル工作教室

地球環境や命の大切さについての興味・関心を高めてもらうために、みやざきエコの会及び当館職員によるワークショップを行った。実施内容は牛乳パック万華鏡、コロコロ貯金箱、エコバッグに絵を描こう、新聞紙防災グッズ（新聞スリッパ）で、参加した子どもたちが興味をもって取り組んでいた。

開催期日 令和3年 6月 5日（土）・6日（日）

参加者数 延べ 246人

⑦第62回科学技術映像祭入選作品上映会

日本科学技術振興財団等の主催による科学技術映像祭の入選4作品を上映した。質の高い映像から科学技術への関心が喚起され、その普及について啓発することができた。

開催期日 令和3年 7月21日（水）～ 1月6日（木）

入場者数 延べ 37, 566人

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止により、夏休み期間中が休館となつたため、上映期間を約4か月延期して実施。

⑧スペシャルサイエンスショー

子どもたちの科学への興味・関心を育むことを目的に、インストラクターが企画しサイエンスショーを開催した。例年人気が高いため、実施回数を2回から増やし、年4回行った。

開催期日 ①令和3年8月1日（日） ②令和3年10月10日（日）

③令和4年1月10日（月・祝） ④令和4年3月20日（日）

参加者数 ①193人 ②139人 ③117人 ④137人 計586人

⑨南極クラス、南極の氷贈呈式&実験ショー

越冬隊員より南極の氷の贈呈があり、その後、南極の講話や南極の氷を使った実験ショーを行う南極クラスを開催した。

開催期日 令和3年 7月 3日（土）

入場者数 373人

⑩命の科学フェア

「なるほど！なっとく！人体の科学ゾーン」で心臓マッサージ体験や心電図検査などと、起震車での地震体験など、体験を通した学習を計画した。

開催期日 令和3年 7月18日（日）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑪青少年のための科学の祭典2021宮崎大会

小中学校、高校の理科教諭、大学関係者と連携し、科学や科学技術の不思議さや楽しさを身近に体験できる実験ブースの出展をし、科学の面白さを実感してもらうとともに、科学および科学技術に対する关心を高める活動を計画した。

開催期日 令和3年 8月 7日（土）・8日（日）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑫教員のための博物館の日

教職員や大学の教育学部生、博物館関係者を対象に博学連携（県立西都原考古博物館、大淀学習館、生目の杜遊古館）を目的としたワークショップを宮崎科学技術館で計画した。

開催期日 令和3年 8月 5日（木）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑬教員のための科学実験講座（新規事業）

学校の授業において、子どもたちへ科学的な発想を豊かにするための科学実験の題材や方法を学ぶ場として、小学校教諭向けの科学実験講座を実施した。

開催期日 令和3年 7月30日（金）

参加者 6名

⑭JSCフェスティバル

敬老の日までの3日間、JSCによる科学実験や工作教室を計画した。

開催期日 令和3年 9月18日（土）～20（月・祝）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑮科学技術館シルバーdays（無料開放日）

敬老の日にちなみ、全館無料開放を計画した。

開催期日 令和3年 9月20日（月・祝）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑯子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

未就学児とその保護者が気軽に参加できるコンサートを、地元アーティスト等による生演奏により、多目的ホールにて開催した。施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日 令和4年3月10日（木）

内 容 子どもの知っている曲の歌や演奏

参加者数 計 45人

⑰名月展

中秋の名月に合わせて、月の姿の魅力や、最新の観測で解明しつつある月の話題について、写真やパネルを展示する。すでに実施した企画展等のパネルや、映像を活用し、月の話題に特化した企画展を計画した。

開催期日 令和3年 9月11日（土）～ 26日（日）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑱ナイトミュージアム

クリスマスシーズンに合わせて館内を夜間開館し、色々な仕掛けやミッションなどを館内に配置した。参加者には「Let's party! 聖夜のいたずら解けるかな？」を題材に、ミッションをクリアするために、様々な体験を通して楽しんでいただいた。体験には、科学の現象や館内の展示物、プラネタリウムの映像を活用した。

開催期日 令和3年12月18日（土）、25日（土）

入場者数 延べ 198人

⑲1日こども館長（事務局経営戦略課事業）

科学及び科学技術に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に職場体験を実施した。

開催日時 令和3年10月9日（土） 10：00～15：00

参加者数 5人（4年生3人、5年生2人）

⑳令和3年度宇宙画作品展

児童・生徒の創造性の育成を図り、宇宙及び宇宙開発に関する興味・関心を高めるため、宇宙をテーマにした絵画作品を募集し展示した。小・中学生から460点の応募があり、内21名の入賞者を対象に、表彰式を実施した。

開催期日 令和3年11月19日（金）～12月12日（日）

表 彰 式 令和3年12月 5日（日）

入場者数 延べ 1, 185人

②サイエンスカフェ（サイエンストーク）

各種イベント等で関連のある科学者や専門家を招いた際に、そのタイミングに合わせて、サイエンスカフェを計画した。

開催期日 令和3年10月11日（月）

講 師 気象予報士 酒井 晋一郎

入場者数 延べ 41人

②企画展「4D－VR展」（新規事業）

先端技術であるVRを開発した地元企業の協力を得て、来館者に最先端技術の仕組みを紹介する展示物や実際に4D－VRを体験できる機会を設け、先端科学技術に興味・関心をもたせる企画展を行った。

開催期日 令和3年 3月27日（土）～ 4月 6日（火）

入場者数 延べ 5, 875人（4月分は2, 254人）

③アウトリーチ事業

館外で実験教室や授業支援を行い、教育施設の支援や、イベントや市街地の活性化の取組みを支援する。本年度は新たにアミュプラザ・イベント広場でのアウトリーチ事業を展開した。

○ちょこっと工作（アウトリーチ）

開催期日・場所 令和4年1月15日（土）・宮崎市立生目台西小学校

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

○若草通り「街市」4月

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

○アミュプラザ・イベント広場 5月

開催期日 令和3年5月2日（日） 午前10時～12時30分

内 容 「ブンブンこま」

参加者数 計 18人 ※突風により午後から中止。

○アミュプラザ・イベント広場 7月

開催期日 令和3年7月3日（土） 午後1時～4時

内 容 「ブンブンこま」

参加者数 計 16人

○若草通り「街市」7月・9月

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

○未来みやざき子育て応援フェスティバル2021

開催期日 令和3年11月13日（土）・14日（日） 午後1時～4時

場 所 宮交シティ 紫陽花ホール

内 容 「タネの模型作成」

参加者数 計 275人

○ガス展

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

○若草通り「街市」 11月

開催期日 令和3年11月27日（土） 午後1時～4時30分
内 容 「キラキラ星座カード作り」
参加者数 計 120人

○若草通り「街市」 3月

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

④インターンシップ、職場体験

中学生の職場体験学習及び、高校生や宮崎市のインターンシップや社会教育実習の受入れをし、青少年の健全育成に貢献するとともに、当館の運営や事業、業務に理解をしていただく機会とする。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度に引き続き、中学校・高等学校等が中止。市社会福祉課事業「子どもの居場所づくり」で、児童生徒15名を受け入れ、キャリア教育、サイエンス事業補助、プラネタリウム視聴等の体験を実施した。

また、学芸員資格取得実習のため、宮崎大学4年生2名を11月10日（水）～14日の5日間受け入れた。

参加者数 延べ 17人

⑤宮崎市教育委員会教職員初任者研修

宮崎市に勤務する小中学校の教職員初任者に対して、教育施設を活用した事業づくりについての研修を行い、実践的指導力を向上させる機会とした。

開催期日 令和3年11月18日（木）・19日（金）
参加者数 27人

⑥宮崎大学理科教育基礎研究フィールドワーク授業

学校外の関係機関と連携した理科学習を探ることを目的に、大学の授業の一環として学生が科学館でフィールドワークを行い、施設の概要及び管理運営を学び、展示物解説、プラネタリウム視聴を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑦科学技術週間工作教室

科学技術週間に合わせて、工作教室を実施した。スカイスクリューを作成し、多くの親子が参加し、作り上げたスカイスクリューを楽しそうに飛ばしていた。

開催期日 令和3年 4月17日（土）・18日（日）
入場者数 参加者数 計 181人

⑧企画展「プログラミングを体験しよう」（新規事業）

学習指導要領の改訂に伴い、昨年度から小学校で始まったプログラミング教育に関して、基礎から学ぶ機会を学校現場以外でも子どもたちに提供した。また、この企画展と合わせて、初めてプログラミングに接する親子に向けて、親子体験教室を開催し、身に付けておきたい技術（順序処理、条件分岐、繰り返し、変数、乱数）をしっかりと学ぶ体験教室を実施した。

開催期日 令和3年 6月19日（土）～ 6月27日（日）
入場者数 延べ 1,749人

㉙授業づくりサポート事業（事務局経営戦略課事業）

学習学校教育支援の一環として、宮崎市・国富町・綾町の小学校理科担当教諭に対し、理科の授業づくり全般のサポートを行った。また、各自の課題に応じて適切なサポートを行うことで、各学校における理科教育の向上に資する。

開催期日 令和3年 12月21日（火）

開催場所 宮崎市立江平小学校 体育館

参加者数 144人

（2）共催事業（）は主催者名

- ①航空教室 実施日 令和3年 7月24日（土）、令和4年 1月 5日（土）
(航空大学校) ※ 夏・冬の航空教室共に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ②宮崎地区サイエンスコンクール展 実施日 令和3年 8月28日（土）～ 9月 5日（日）
(みやざき科学技術人材育成推進委員会) ※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ③県学校発明くふう展 実施日 令和3年10月15日（金）～ 17日（日）
(宮崎県発明協会) 入場者数 延べ 453人
- ④宮崎市中学校書写展 実施日 令和4年1月12日（水）～23日（日）
(宮崎市中学校書写部会) 入場者数 延べ 963人
- ⑤コズミックカレッジ 実施日 令和3年11月14日（日）
(宮崎ハマユウ会) 入場者数 35人

宮崎市歴史資料館

【宮崎市生目の杜遊古館】

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、令和3年度の宮崎市生目の杜遊古館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の円滑な運営を行うため保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	211日
入館者数	16,401人
1日平均入館者数	78人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館 92日間(5/3~5/31、8/5~9/30、1/22~2/13)

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小人	4,958人 (30.2%)
大人	11,443人 (69.8%)
合計	16,401人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個人	11,988人 (73.1%)
団体	4,413人 (26.9%)
合計	16,401人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所等	239人 (6.1%)
小学校	1,480人 (38.3%)
中学校	126人 (3.3%)
一般	2,023人 (52.3%)
合計	3,868人

・広域圏外

幼稚園・保育所等	0人 (0%)
小学校	415人 (85.4%)
中学校	0人 (0%)
一般	71人 (14.6%)
合計	486人

④ 県外団体利用内訳

一般	59人 (100%)
小学校	0人 (0%)
中学校	0人 (0%)
合計	59人

⑤ 県外地域別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	0	0	0
四国	0	0	0
近畿	0	0	0
中国	0	0	0
中部	0	0	0
関東	3	59	100
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	3	59	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

2 常設展示事業

展示室1では旧石器時代から近現代に至る宮崎市域の歴史について、展示室2では国重要文化財に指定された「下北方5号地下式横穴墓出土品」について、展示室4では隣接する国指定史跡生目古墳群や宮崎市内の遺跡から出土した埋蔵文化財について展示・紹介している。

展示室1・2および企画展示室となる展示室3は令和2年9月に新設。

3 企画展示事業

展示室3では、下記のとおり企画展示を行っている。

(1) 企画展『山・川・海とみやざきの歴史』

自然という大きなカテゴリーの中から「山」「川(河)」「海」にまつわる、縄文時代から昭和にかけての宮崎市域の資料の展示を通して、郷土の歴史を紹介した。

開催期日 令和3年 10月23日(土)～12月 5日(日)

入場者数 延べ 4,974人

(2) 企画展『これって何?』

源藤遺跡出土の「人面付土製品」ほか、蚕神が描かれた「養蚕守護神掛軸」など、分野・形態の異なる不思議な資料を紹介し、クイズ形式での展示を行った。

開催期日 令和4年 2月15日(火)～3月6日(日)

入場者数 延べ 1,203人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館(1/22～2/13)のため、1月22日からを予定していた開催が2月15日に延期となった。

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 講 座

①歴史文化講座

宮崎の歴史・文化について、当館館長のほか、外部専門家の方々を講師として招き実施した。

実施回数 9回（昨年度延期回を含む。）

内容(演題) 「江戸の教育」、「日本書紀にみる神武天皇の物語Ⅱ」、「日本人の住まい作法」、「宮崎市の江戸時代」、「江戸の文化」、「南北朝時代の宮崎平野」、「宮崎の戦争」、「室町から大正時代までの経済事件を推理する」、「江戸の災禍」

参加者数 延べ 341人

②埋蔵文化財（考古学）関連講座

宮崎市内の遺跡や遺物に関する講座として、宮崎市教育委員会文化財課の専門職員による講話を行った。

実施回数 5回

内容(演題) 下北方5号地下式横穴墓出土品の重文指定記念①②③

交流が語る弥生文化・発掘された縄文文化

参加者数 延べ 183人

③古文書講座（初級編、中級編）

宮崎県立図書館の史料筆耕解読員を講師に迎え、本年度から内容を初級編と中級編に分け、各5回コースの古文書の解読演習を行った。

（初級編）

実施回数 5回 テキスト『五人組帳』ほか

参加者数 延べ 139人

（中級編）

実施回数 5回 テキスト『佐土原騒動見聞書』『天明騒動略日記』

参加者数 延べ 103人

(2) 歴史文化体験

学芸員による歴史や文化にまつわるモノ作りや歴史探訪を実施した。

実施回数 2回（第1・2回がモノ作り、第3回ミニ歴史探訪）

参加者数 延べ 14人

※第1回は臨時休館（1/22～2/13）のため中止とした。

(3) 体験学習・個人体験プログラム

「古代織りでコースターづくり」等の古代のモノ作り体験や昔の人々の暮らしと関連した「ミニ門松づくり」等の製作体験を行うもので、子どもと保護者・一般の参加者を対象に実施した。

体験学習	実施回数	18回計画中、14回（14講座）実施
	実施内容	石臼体験・けん玉づくり・草木染め・竹馬づくり・藍染体験 古代米を使った団子づくり・ミニ埴輪づくり・リースづくり ミニ門松づくり・火起こしとカラーキャンドルづくり など
	参加者数	延べ 338人
個人体験	実施回数	47回（4～3月） 勾玉・はなわ・土笛づくり
	参加者数	延べ 353人

(4) 学校教育等との連携

学校教育や幼児教育への支援として、勾玉づくりや土笛づくり、史跡ウォークラリーといった体験活動や展示室・生目古墳群見学などのプログラムを実施した。利用の目的としては、社会科見学や遠足のほか、新型コロナウィルス感染症の拡大に関連し、宮崎県内小学校の修学旅行視察先として多くの利用があった。

小・中学校・高等学校	来館校数	29校
	来館者数	延べ 2,341人
幼稚園・保育所等	来館園数	7園
	来館者数	延べ 239人

この他、生涯学習支援として、地域住民向けの出前講座等を1回行った。

5 イベント事業

(1) 子どもの日イベント

ゴールデンウィーク期間中の5月4日（火・祝）から5日（水・祝）に子ども対象とした紙兜づくり、勾玉づくり、館内ウォークラリーといったイベントを開催予定であったが、新型コロナウィルス感染症拡大防止に伴う臨時休館により中止となった。そのため、イベント内の勾玉づくりのみ事前申込者を対象として、振り替えて実施した。

【1回目】令和3年 7月11日（日） 46人

【2回目】令和3年 7月18日（日） 18人

(2) 夏休みイベント

①生き物採集教室

7月24日（土）に大淀川学習館より専門職員の応援を受け、子どもとその保護者を対象として、館内広場で昆虫採集や解説を実施する予定であったが、天候不良のため中止とした。

②遊古館ディキャンプ

宿泊を伴わない日中のキャンプ活動として、勾玉やミニ埴輪、土笛といったモノ作りのほか、火おこしと飯盒炊飯、キャンプファイヤーなどを行った。同内容を2回開催する予定であったが、第2回は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館により中止とした。

【1回目】令和3年 8月1日（日） 31人

【2回目】令和3年 8月22日（日） 中止

③夏休み特別企画「個人体験プログラム」

通常、土・日曜・祝日のみ実施している個人体験プログラムを、夏休み期間にあたる8月11日（水）～20日（金）に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館により中止とした。

（3）「生目の杜遊古館 de 古代体験 with みやざき生目古墳まつり」

「みやざき生目古墳まつり～生目古墳群 de ピクニック～」（生目古墳まつり実行委員会主催）に合わせ、ハート型の勾玉づくりや土器パズル体験、竹馬等の昔の遊び体験を実施した。

開催期日 令和3年11月20日（土）

参加者数 500人

（4）1日こども館長（事務局経営戦略課事業）

文化財や歴史に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に展示室や古墳の見学、リースづくりなどを体験した。

開催日時 令和3年11月21日（日）

参加者数 4人

（5）子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

未就学児とその保護者が気軽に参加できるコンサートを地元アーティスト等による生演奏により、多目的室にて開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日 令和3年10月7日（木）

内 容 andante・押川洋樹氏によるミドと音楽とソラの旅

参加者数 52人（大人26人・子ども26人）

6 資料収集、調査・研究

市民の資料に関する照会・相談を受けたほか、「令和3年度宮崎市歴史資料館 研究紀要」を刊行予定。

【宮崎市佐土原歴史資料館】

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、令和3年度の宮崎市佐土原歴史資料館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の適切な管理運営を行うため保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	91日
入館者数	5,146人
1日平均入館者数	57人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館 51日間（5/3～5/31、8/5～9/30、1/22～2/13）

(2) 利用内訳

①入館者数（小人・大人）内訳

小人	1,233人 (24.0%)
大人	3,913人 (76.0%)
合計	5,146人

②入館者数（個人・団体）内訳

個人	4,471人 (86.9%)
団体	675人 (13.1%)
合計	5,146人

③県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所等	57人 (9.3%)
小学校	416人 (67.9%)
中学校	0人 (0%)
一般	140人 (22.8%)
合計	613人

・広域圏外

幼稚園・保育所等	0人 (0%)
小学校	0人 (0%)
中学校	0人 (0%)
一般	62人 (100%)
合計	62人

④ 県外団体利用内訳

一般	49人 (100%)
小学校	0人 (0%)
中学校	0人 (0%)
合計	49人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	0	0	0
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	2	35	71.4
東北	1	14	28.6
北海道	0	0	0
合計	3	49	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

2 常設展示事業

(1) 鶴松館

江戸期の佐土原城二の丸居館跡の発掘調査をもとに想像復元した「鶴松館」では、佐土原藩にまつわる掛軸・屏風・鎧兜などや、佐土原島津家の調度品を展示するとともに、地元に伝承される佐土原人形を展示した。藩主が日常政務をとる場の外観を再現した書院では、古代から近代にかけての佐土原の歴史について、各時代の資料を展示し解説した。

(2) 商家資料館 旧阪本家

江戸期から味噌や醤油の醸造販売を手がけていた商家「旧阪本家」（明治 38（1905）年築重層入母屋造。市指定有形文化財・市景観重要建造物）を資料館として、1階に机や錢箱などを配した帳場を再現し、2階に当時の商いに関する資料や城下の町並みの古写真を展示した。

3 企画展示事業

(1) 企画展「げなげな佐土原～藩校学習館の巻～」

タイトルのとおり、「～げな」を使った口語体の説明パネルを用いて、佐土原の藩校であった「学習館」と関連する事件等についてわかりやすく紹介した。

開催期日 令和 3 年 6 月 1 日（火）～8 月 1 日（日）

入場者数 延べ 1,629 人

※当初 5 月 15 日（土）～6 月 14 日（日）を会期としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館のため、会期を延長した。

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

城下町佐土原に古くから伝わる工芸品等の製作及び城跡の自然環境を活用し、昔のくらしと文化にまつわる体験学習を、子どもとその保護者及び一般の参加者を対象に実施した。

実施回数 9 回計画中、臨時休館のため 8 回（7 講座）実施

内 容 「佐土原古地図散歩（武士編①②）（庶民編①②）」、「生け花」

「佐土原人形の絵付け」、「うずら車の絵付け」、「十三夜、月を愛でる」

参加者数 延べ 188 人

(2) 学校教育等との連携

学校教育において宮崎市生涯学習課事業の「施設利用学習支援事業」や総合的な学習等による学校の団体利用のほか、児童や教職員を対象とした出前事業を実施した。

① 団体利用

小学校	来館校数	4校（5件）
	来館者数	延べ 307人

② 出前授業・講座

小学校	参加校数	2校（4件）
	参加者数	延べ 154人

5 イベント事業

(1) 神代独楽回し大会

佐土原に江戸時代から下級武士の内職として続けられ、端午の節句のお祝いとして伝えられてきた神代独楽を使ったこま回し大会を実施した。

開催期日	令和4年 1月 9日（日）
講 師	兵頭正一氏（宮崎県伝統工芸士）
参加者数	10人

(2) 共催事業

例年、宮崎市城の駅佐土原いろは館（NPO法人ドンと佐土原まちおこし隊運営）と共に子どもを対象として5月に行っていたイベント「佐土原くじら子どもまつり」及び、佐土原地域づくり協議会と共に、鶴松館裏手にある花しょうぶ園で行っていた6月の「佐土原花しょうぶ祭り」については、いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館等により中止となった。

6 資料収集、調査・研究

市民より佐土原人形や文書等、計40点の寄贈を受けた。また、資料収集に関連して資料調査（聞き取り、写真撮影等）を実施し、記録作業を行った。

【宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館】

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、令和3年度の宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館の管理運営業務を行うとともに施設の維持管理及び展示物等の確実な保存、保管を行うため、保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	102日
入館者数	10,281人
1日平均入館者数	101人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館40日間(5/3~5/31、8/5~9/30、1/22~2/13)

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小人	4,129人 (40.2%)
大人	6,152人 (59.8%)
合計	10,281人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個人	8,514人 (82.8%)
団体	1,767人 (17.2%)
合計	10,281人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所等	0人 (0%)
小学校	1,659人 (98.0%)
中学校	0人 (0%)
一般	33人 (2.0%)
合計	1,692人

・広域圏外

幼稚園・保育所等	0人 (0%)
小学校	60人 (80.0%)
中学校	0人 (0%)
一般	15人 (20.0%)
合計	75人

④ 県外団体利用内訳

小学校	0人 (0%)
中学校	0人 (0%)
一般	0人 (0%)
合計	0人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	0	0	0
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	0	0	0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

2 常設展示事業

大淀川とともに生きてきた旧高岡町の人々の生活ぶりや薩摩藩の外城として栄えた江戸時代の高岡、穆佐の武家社会の様子などを資料や映像などの展示を通して紹介している。見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土愛を培う場を提供した。

3 企画展示事業

企画展『高岡、道ものがたり展』

高岡、去川の関、関所を代々守り継いだ二見家に関する資料や、昭和初期から末期までの高岡町内を通る主要道路の写真パネルを展示し、高岡を通る「道」の移り変わりを紹介した。

開催期日 令和4年 3月15日(火)～4月14日(木)

入場者数 延べ 6,216人(年度内入館者数3,540人)

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

水鉄砲づくりやミニ門松づくりなどの昔ながらの製作を中心とした体験学習を行うもので、主に宮崎市近郊在住の子どもとその保護者を対象に実施した。

実施回数 8回計画中、5回(5講座)実施

内容 弓矢づくり・水鉄砲づくり・高岡麓のまちなみを歩こう・凧づくり
ミニ門松づくり

参加者数 延べ 76人

(2) 学校教育等との連携

学校教育において宮崎市生涯学習課事業の「施設利用学習支援事業」や総合的な学習等による学校の団体利用があった。

小学校 来館校数 7校

来館者数 延べ 785人

(3) 授業支援事業「くらしを支えた昔の道具」

当館所蔵の民俗資料（昔の道具）を活用し、小学校の社会科における「変わってきた人びとのくらし」の学習等の充実に資することを目的として実施した。

対象 宮崎市、国富町、綾町内の小学校

実施回数 15回実施（宮崎市内小学校 15校）

参加者数 延べ 934人

※新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、7校がキャンセルとなった。

(4) 高岡歴史かるたで遊ぼう

宮崎市高岡町の寺社仏閣・文化財・史跡・先人といった高岡にまつわる事柄を札とした高岡歴史かるたを用い、高岡の歴史や文化を学びながらかるた遊びを行った。

期日 第1回 令和3年 7月4日（日）、第2回 9月5日（日）、

第3回 10月10日（日）、第4回 11月7日（日）

※全4回の予定であったが、第2回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館のため中止とした。

講師 高岡歴史かるた会 山口孝治氏（宮崎西小学校教諭）ほか2名

参加人数 延べ 40人（大人21人・子ども19人）

5 資料収集、調査・研究

資料収集としては、手回しミシンをはじめとする民俗資料16点の寄贈があった。また、資料収集に関連して資料調査（聞き取り、写真撮影等）を実施し、記録作業を行った。

大淀川学習館

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、大淀川学習館の適切かつ円滑な管理運営業務を行うため、展示物の工夫等を行うとともに、施設の維持管理、保守・点検などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	211日
入館者数	58,412人
1日平均入館者数	277人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館 92日間

(5/3~5/31、8/5~9/30、1/22~2/13)

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小人	32,223人 (55.2%)
大人	26,189人 (44.8%)
合計	58,412人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個人	53,070人 (90.9%)
団体	5,342人 (9.1%)
合計	58,412人

③ 県内団体利用内訳

・ 広域圏内 学校団体

幼稚園・保育所等	1,224人 (39.3%)
小学校	1,864人 (59.9%)
中学校	4人 (0.1%)
高等学校	0人 (0.0%)
大学・短期大学	21人 (0.7%)
特別支援学校	0人 (0.0%)
合計	3,113人

・ 広域圏外 学校団体

幼稚園・保育所等	295人 (24.8%)
小学校	851人 (71.4%)
中学校	0人 (0.0%)
高等学校	0人 (0.0%)
大学・短期大学	45人 (3.8%)
特別支援学校	0人 (0.0%)
合計	1,191人

・ 一般団体

医療・福祉	886人 (85.4%)
教育	0人 (0.0%)
その他	152人 (14.6%)
合計	1,038人

④ 県外団体利用内訳

小人	2人
大人	12人
合計	14人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	1	14	100
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
全国	0	0	0
海外	0	0	0
合計	1	14	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	1	14	100
沖縄	0	0	0
合計	1	14	100

2 展示事業

(1) 常設展示

大淀川流域の自然や文化、歴史などについて、虫眼鏡や顕微鏡を用いて見ること、標本やはく製等へ直に触れること、身近な動植物への新たな気づきを楽しむことを通して、学びを深めるための展示を行っている。

令和3年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策として、パソコンや顕微鏡などの直接触れる展示物を一時撤去し、見て学べる展示物を中心に工夫した。

(2) 生体展示

① 自然楽習園

自然楽習園では、子どもたちの自然観察力を向上させるため、季節に応じてチョウの食草や蜜源植物を設置し、令和3年度は、年間4,018頭を放蝶することで、常時30～100頭を自然環境に近い状態で観察できるように維持した。また、学習効果を高めるための解説板設置や、蜜源植物の導入及び設置レイアウトの工夫を行った。さらに、床面の改修工事を行い、車椅子利用の来館者にも安心して観察していただく場所を確保した。

② 生体展示ホール

大淀川の上流から日向灘までのつながりを一体的に学ぶ場として、小型水槽と大型水槽では、大淀川の上流域から河口域にかけて生息する魚を、円型水槽においては、日向灘に生息する海洋生物を展示した。大淀川固有種のオオヨドシマドジョウ等の希少な生体からカニやカメ等の身近な生き物まで幅広くそろえ、子どもの興味や視線の高さ、季節等に応じて、隨時、配置換えを行った。

③ ホタル展示室

水質保全意識の向上を図るため、清流の象徴であるゲンジボタルを展示した。成虫だけではなく、卵や幼虫、蛹の展示も行い、解説や飼育体験を通して、子どもたちの学習機会を確保した。宮崎市環境保全課や宮崎市内の各地区ホタル保存会と連携・協力を図りながら、ホタルビオトープ水槽等を活用して館内羽化率向上に取り組んだ。令和2年度は羽化率が低かったが、令和3年度は、羽化装置にスポンジを入れる等の改良を加え、温度管理を徹底した結果、羽化率が向上した。今後も継続して羽化率向上に取り組んでいく。

(3) 企画展示

① 特別企画展 「水の生き物と仲良くなろう！ザリガニ展」

内 容 生命尊重や環境保全意識の向上、在来種と外来種に関する正しい知識の普及を図るために、生体展示を中心に行った。体色変化を観察するコーナーや外来生物としてのアメリカザリガニの特徴等を掲示した。また、青や白など、特殊な色のアメリカザリガニや大型の生体を展示し、解説パネルの設置やミニ講座等を実施した。

開催期日 令和3年4月27日（火）～令和3年6月6日（日）

入場者数 延べ 3,590人 ※5月3日（月）～30日（日）は、臨時休館のため中止。

② 企画展 「カラー魚拓への誘い」

内 容 サカナの特徴に興味をもち、生物を題材とした文化活動への関心を高めるため、サカナの色や形、模様などを鮮やかに表現することができるカラー魚拓を、地元愛好家の協力を得て展示了。

開催期日 令和3年6月15日（火）～令和3年7月11日（日）

入場者数 延べ 7,411人

③ 特別企画展 「森の生き物と仲良くなろう！カブトムシ・クワガタムシ展」

内 容 子どもたちが、生命の尊さや生き物と触れ合う楽しさを体験的に理解するため、例年好評な大淀川流域に生息するカブトムシやクワガタムシに関する企画展を実施した。令和3年度は、感染症対策により、実際に生体に触れていただく体験の実施が難しかったため、見て理解できる展示を工夫した。また、生態系維持の重要性や在来種と外来種に関する正しい知識の普及・啓発を図るために、外国産の生体も同一会場内に展示し、パネルやミニ講座等による解説を行った。

開催期日 令和3年7月17日（土）～令和3年8月31日（火）

入場者数 延べ 13,257人 ※8月5日（木）以降は、臨時休館のため中止。

④ 企画展 「よく見てみよう！ちょっとひりこわい生き物展」

内 容 命の尊さや新たな発見の喜びを感じて、生物の多様性や役割を理解するため、一般的に嫌悪されがちなヘビやゴキブリ、ムカデ等を展示し、観察する機会を設けた。

開催期日 令和3年9月14日（火）～令和3年10月31日（日）

入場者数 延べ 7,136人 ※9月30日（木）までは、臨時休館のため中止。

- ⑤ 新規企画展 「くらべてみよう！いろんな生き物うんち展」
内 容 クモやムカデ等身近な生き物の排泄物や、排泄物に擬態することで敵から身を守る生き物を探すパネルを展示したり、うんちに関するクイズを紹介したりして、生き物の生活の不思議さ、命の価値や尊さを考える機会を設けた。
開催期日 令和3年10月1日（金）～令和3年10月12日（火）
入場者数 延べ 3, 389人
- ⑥ 新規企画展 「昆虫食～おいしい虫～展」
内 容 昔からある宮崎県の食文化の継承と、SDGsの取組の活性化に繋がるように、市販の昆虫食や昆虫食を紹介するパネルを展示し、世界的に昆虫食が広がりつつあることを周知した。
開催期日 令和3年11月2日（火）～令和3年12月12日（日）
入場者数 延べ 8, 350人
- ⑦ 特別企画展 「身近な生き物と仲良くなろう！金魚・メダカ・カメ展」
内 容 身近な生物と触れ合うよさを感じたり、人と動植物のつながりについて考えたりするために、古くから親しまれ家庭でも比較的簡単に飼育できる金魚やメダカ、カメ等について、生体展示やパネル展示を行った。
開催期日 令和3年11月5日（金）～令和3年12月12日（日）
入場者数 延べ 7, 269人
- ⑧ 企画展 「県産材積み木で遊ぼう！」
内 容 宮崎県産材製の「からから積み木」を約20, 000個準備し、自由に作品づくりを行いながら、宮崎の豊かな自然に気づく機会を提供する場として準備していた。
開催期日 令和3年12月21日（火）～令和4年3月13日（日）
入場者数 延べ 0人 ※十分な積み木の消毒ができないことから全期間中止
- ⑨ 企画展 「変身しよう！みんなの（寝ころび）→（生き物）アート展」
内 容 SNSフォトスポット需要の高まりを受け、乳幼児期から親子で自然に親しうききっかけとするため、自然を感じつつ、写真撮影を通した文化活動にも触れることができる会場を設けた。感染症対策のため、「寝ころびアートコーナー」を「立体アートコーナー」に変更して実施した。また、中止とした企画展「県産材積み木で遊ぼう！」に替えて前倒しで実施した。
開催期日 令和3年12月21日（火）～令和4年2月27日（日）
入場者数 延べ 5, 452人
※1月22日（土）～2月13日（日）は、臨時休館のため中止
- ⑩ 企画展 「春一番！ひな山展」
内 容 大淀川流域の民俗文化への興味・関心を高めるために、大淀川清流域の綾町で育まれた「ひな山」をエントランスホールに展示した。
開催期日 令和4年2月5日（土）～令和4年3月3日（木）
入場者数 延べ 2, 573人 ※2月13日（日）までは、臨時休館のため中止

(4) 作品募集と展示

① 作品展	第27回 大淀川流域の動植物画コンクール入賞作品展
内 容	大淀川流域の動植物に対する興味・関心を高めるとともに、動植物を観察する力を育てるために、大淀川流域に生息・生育する動植物の精密画を募集し、入賞作品を展示了。
応募数	849点
開催期日	令和3年10月1日（金）～令和3年10月31日（日）
入場者数	延べ 7, 136人

(5) 川のシアター

内 容 大淀川の自然環境への興味・関心を高めるため、6本のオリジナル番組（A 大淀川の自然を訪ねて、B 大淀川の水と生き物たち、C 大淀川の生き立ちと生き物、D 母なる川～大淀川～、E 大淀川水辺のおさんぽ、F 大淀川の虫たち）に加え、令和元年度に作成した2番組（G ダイビング in 南郷、H 日向灘の海）を立体ハイビジョンにて上映した。

上映回数 381回

観覧人数 延べ 4, 961人

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対策や臨時休館のため、上映回数が大幅に減少した。

令和2年度（上映回数：92回 観覧人数：延べ1, 596人）

令和元年度（上映回数：1, 270回 観覧人数：延べ27, 025人）

(6) 里山の楽校

古来より、人が里山を通じて自然の恩恵を受けながら生活を送ってきたことについて理解し、身近な自然環境を大切にする心を育むために、多目的施設「杉の家」を中心として、里山を再現したフィールドを維持し、教室事業等において活用を図った。また、学習支援を利用する地層コーナーや、自然楽習園を維持するために必要な第2食草園についても一体的に管理している。

3 学校対応事業

学校、幼稚園等の教育課程に沿った支援活動を行うことによって、教育効果を高めることを目的として館での見学受け入れを行った。

(1) 授業支援

対象	小学校 9校
実施回数	9回
参加者数	延べ 934人
内 容	チョウやホタルの生態について、本物の良さを最大限生かしつつ、館で作成したワークシートを用いて学習指導を行うものである。

(2) 指導者支援

対象	小・中学校教諭等
実施回数	1回
参加者数	延べ 5人
内 容	チョウとメダカについての生態観察や飼育方法に関する内容について、講義や演習を行うものである。令和3年度は、チョウ講座の2回目とメダカ講座は、中止となったが、資料・教材配付は実施した。

4 団体対応事業

(1) 子ども会・PTA・学童保育等への支援

対象 子ども会・PTA・学童保育等
実施回数 0回（申し込みなし）
参加者数 延べ 0人

内容 展示に関する説明や自然をテーマにした簡単な工作活動を行うものである。

(2) 出前授業等

対象 児童館や地域づくり協議会等
実施回数 10回
参加者数 延べ 538人
内容 植物を使ったものづくり（松ぼっくりのクリスマスツリー）や野外活動・生き物の講座を行った。

5 教室事業

自然に対しての興味・関心を高めるとともに、環境に対する理解を深めることを目的として行った。

(1) 環境教室

対象 小学生以上
実施回数 2回
参加者数 延べ 19人
内容 「ホタル環境教室」を1回、「川の生き物で水質環境調査」を計2回、「自由研究にぴったり！浄水場見学会」を1回、「水の生き物のすむ環境を作ってみよう」を1回計画した。実施できたのは、「川の生き物で水質環境調査（夏）」と「水の生き物のすむ環境を作ってみよう」の2回のみであった。

(2) 飼育・観察教室

対象 小学生以上
実施回数 6回（全13回の内、7回は中止）
参加者数 延べ 89人
内容 「目指せ！ムシはかせ」を2回、「目指せ！ムシはかせ（夜間）」を1回、「初めてのカブトムシ・クワガタムシ採集・飼育教室」を3回行った。メダカの飼育教室は3回計画したが、実施できなかつたので活動教室として実施した。

(3) 活動教室

対象 小学生以上
実施回数 5回（「アユの稚魚放流しよう！」は中止）
参加者数 延べ 59人
内容 「メダカの飼育教室」、「水を浄化してみよう」、「ハーブティーを楽しもう！」、「シイタケの種駒打ちをしよう！」、「食べられる野草を探してみよう！」を行つた。

(4) ものづくり教室

対象 小学生以上
実施回数 5回
参加者数 延べ 93人
内容 「昆虫標本を作ろう！」、「カラー魚拓を制作しよう！」、「植物標本を作ろう！」、「野鳥の巣箱を作ろう！」、「ミツロウでオリジナルキャンドルを作ろう！」を行つた。

(5) 園児教室

対象 幼稚園や保育所等の園児
実施回数 11回
参加者数 延べ 315人
内容 動植物の話を聞いたり、工作活動をしたりした。

6 イベント事業

大淀川学習館の利用を促進するとともに、自然に親しみ、水環境に対する関心を高めることを目的とした事業である。

(1) 季節のイベント

対象 全来館者（内容により年齢制限を設けているものもある）
実施回数 4回
参加者数 延べ 161人
内容 「カブトムシの幼虫を育てよう！」「カブトムシの木登り大会」「クワガタムシのすもう大会」、「クリスマスコンサート in 大淀川学習館」を実施した。

(2) わくわく工作

対象 全来館者
実施回数 40回
参加者数 延べ 665人
内容 大淀川流域の自然や文化をテーマにして、家族で楽しみながら創作を行うイベントを、毎月第2・4土曜日に2回ずつ実施した。休館等により多くの回が中止となった。
(工作内容の例：「ミニ鯉のぼりを作ろう！」「かぶと飾りを作ろう！」「切り紙で昆虫標本を作ろう！」「七夕飾りを作ろう」「貝がらで工作しよう！」「風船のハロウィンおばけを作ろう！」等)

(3) 講演会

対象 全来館者
実施回数 1回
参加者数 延べ 12人
内容 新型コロナウイルス感染症の拡大により、講師の選定等が難しくなったため、「SDGsと生き物たち」と題して、大淀川学習館職員4名が講師となり講演会を実施した。

7 その他の事業

(1) 学校教育及び幼児保育等との連携

幼稚園や保育所等の園外活動や小中学校の校外学習など、見学時の要望に応えて、自然環境や生物についての講話や体験活動等を提供した。また、中学校や高等学校の職場体験学習や大学の博物館実習等についても積極的に受け入れた。

来館学校

幼稚園	15団体	延べ来館者	485人
保育所	22団体	延べ来館者	501人
幼保連携型認定こども園	13団体	延べ来館者	341人
小学校	36団体	延べ来館者	2,856人
中学校	1団体	延べ来館者	4人
高等学校	0団体	延べ来館者	0人
特別支援学校・大学・短大	2団体	延べ来館者	66人
合 計	89団体	延べ来館者	4,253人

(2) カブトムシの幼虫プレゼント(宮崎科学技術館との連携)

宮崎科学技術館の受付にて「カブトムシの幼虫プレゼントチケット」を配付し、翌日、大淀川学習館にチケットを持参した子どもにカブトムシの幼虫（館にて採卵又は採集の後、飼育したもの）をプレゼントした。

開催期日 令和3年4月18日（日）

参加者数 26人

(3) 子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

未就学児とその保護者が気軽に参加できるコンサートを、地元アーティスト等による生演奏により行い、各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とするものである。

期 日 中止

参加者数 0人 ※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止

(4) 1日こども館長（事務局経営戦略課事業）

河川及びその周辺の自然等に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に職場体験を実施した。

開催日時 令和3年12月12日（日） 小学生4名

(5) 各種関係団体との連携 () 内は団体等の名称

- ①アユの稚魚を放流しよう 実施日 中止
(宮崎県内水面振興センター) 入場者数 0人
- ②自由研究にぴったり！浄水場見学 実施日 中止
(宮崎市上下水道局：富吉浄水場) 入場者数 0人
- ③クリスマスコンサート 実施日 令和3年12月25日(土)
(宮崎市立宮崎北中学校) 入場者数 72人
- ④ふれあいもちつき大会 実施日 中止
(水源地団地自治会) 入場者数 0人
- ⑤カラー魚拓を制作しよう 実施日 令和3年7月4日(日)
(色彩魚拓画会) 入場者数 子ども3人、大人4人、計7人
- ⑥しいたけの種駒打ちをしよう 実施日 令和4年2月27日(日)
(宮崎中央森林組合) 入場者数 子ども5人、大人7人、計12人

(6) 情報提供と広報活動

I C T (情報通信技術) を積極的に活用し、S N S (ブログ、フェイスブック) を用いた情報提供や広報活動を行った。

また、宮崎市水道局の広報誌「せせらぎ」の36号(令和元年8月号)～41号(令和4年2月号)まで、宮崎市役所のY o u T u b e チャンネルと連動した「みやざき水辺の生き物図鑑」の企画・製作に全面協力した。

宮崎市民プラザ

1 管理運営事業

令和3年度は、当協会が宮崎市民プラザの指定管理者として再指定を受けて3年目となり、「公平・公正な管理運営」「満足度の高い管理運営」「安心・安全で効率的な管理運営」の3つの基本方針に基づいて施設の管理運営に努めた。前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う施設の利用制限等の影響はあったものの、感染症対策と社会経済活動との両立もあって、対前年比で入館者数は微増となった。

(1) 利用状況

開 館 日 数	276 日
入 館 者 数	96,622 人
1 日 平 均 入 館 者 数	350 人

(2) 利用内訳

・ 1階 オルブライトホール	24,404 人 (利用率 63.8%)
・ 4階 ギャラリー	14,356 人 (利用率 67.3%)
・ 4階 練習室①	7,002 人 (利用率 57.0%)
・ 4階 練習室②	1,510 人 (利用率 62.5%)
・ 4階 大会議室	8,746 人 (利用率 69.3%)
・ 4階 中会議室	4,914 人 (利用率 73.5%)
・ 4階 小会議室①	2,962 人 (利用率 74.4%)
・ 4階 小会議室②	2,067 人 (利用率 67.0%)
・ 4階 和室	2,109 人 (利用率 61.8%)
・ 4階 学習室	2,412 人 (利用率 60.2%)
・ 1階 授乳室／2階 プレイルーム	27 人 ※プレイルームは閉鎖
・ 1階 カフェクレイン	853 人
・ 1階 エントランス	1,505 人
・ 3階 宮崎市民活動センター	13,119 人
・ 3階 各団体室	4,259 人
・ ホール打合せ	9 人
・ ギャラリー打合せ	91 人
・ 窓口受付	5,843 人
・ 視察者等	434 人 (76 団体)
合計 96,622 人	

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大による施設の利用制限（利用の自粛要請等）

- ・令和3年5月3日（月）～5月31日（月）
(感染急増圏域の指定、県独自の緊急事態宣言)
- ・令和3年8月6日（金）～9月30日（木）
(感染急増圏域の指定、県独自の緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の適用・延長)

2 文化芸術企画事業

「市民文化の振興」「若い世代へのアプローチ」「文化芸術活動への支援」の3つの取組方針に基づいて鑑賞型や創造・参加型、普及・育成型など様々な形で事業に取り組んだが、新型コロナウィルス感染症の感染拡大により、収容人数の制限や事業によっては中止や延期を余儀なくされた。

(1) 子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

乳幼児とその保護者に生の音楽を身近に感じてもらうため、乳幼児と保護者を対象にテレビアニメの主題歌や童謡などのコンサートを実施した。

- ・日 時 令和3年7月21日（水） 10：00開場 10：30開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出 演 者 大石 純子（エレクトーン）、贊田 泰子（フルート）、米山 優子（ピアノ・歌）
- ・入 場 料 無料
- ・入場者数 115人（子ども61人、保護者54人） ※収容人数を制限

(2) 桂 歌春の落語教室（アウトリーチ事業）

本県出身で落語家の桂歌春さんと宮崎の小学生が交流する機会を創出するとともに、古典芸能の落語を身近に感じてもらうため、桂歌春さんが小学校へ出向くアウトリーチを実施した。

- ・日 程 令和3年9月16日（木）
- ・実 施 校 宮崎市立大宮小学校（対象：全校児童919人）
国富町立本庄小学校（対象：6年生児童65人）
- ・講 師 桂 歌春

(3) 第15回市民プラザコンサート～音！樂！喜！！-Vol.2-

市民が気軽に楽しめる趣向を凝らしたコンサートを通して音楽文化の振興を図るため、地元宮崎で活動・活躍する様々なジャンルのアーティスト4組によるコンサートを実施した。

- ・日 時 令和3年10月8日（金） 17：30開場 18：30開演
※新型コロナウィルス感染拡大の影響により、開催日を8月28日から延期
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出 演 者 大出水 陽香（ポップス）、真北 聖子（ポップス）、PAVYVIEW（ラップ）、beat garage（ポップス）
- ・入 場 料 無料
- ・入場者数 145人 ※収容人数を制限

(4) 子どものための文化芸術体験プログラム（アウトリーチ事業）

子どもたちの文化芸術に対する関心を高めるとともに心豊かな感性を育むため、演奏家が小学校へ出向くアウトリーチを実施した。

- ・日 程 令和3年10月28日（木）
- ・実 施 校 宮崎市立生目小学校（対象：3～5年生児童311人）
宮崎市立穆佐小学校（対象：5～6年生児童48人）
- ・演 奏 アンサンブルみやざき（管弦楽）

(5) 市民プラザ寄席「喬太郎・歌春二人会」

市民が気軽に楽しめる落語を通して、古典芸能への興味関心を高めるため、本県出身で落語家の桂歌春さんがプロデュースする落語会を実施した。

- ・日 時 令和3年10月31日（日） 13：00開場 14：00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出 演 者 柳家 喬太郎（落語）、桂 歌春（落語）、雷門 音助（落語）、宮田陽・昇（漫才）
- ・入 場 料 指定席／前売3,500円（当日4,200円）
- ・入場者数 244人 ※収容人数を制限

(6) 1日子ども館長（事務局経営戦略課事業）

文化芸術に対する興味関心を高めるとともに将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に「市民プラザ寄席」公演での職場体験を実施した。

- ・日 時 令和3年10月31日（日） 10：00～15：00
- ・場 所 オルブライトホール
- ・参加者数 3人（5年生1人、6年生2人）

(7) 舞台さんと行く！夏休み！！バックステージ体験

普段は入ることのできないオルブライトホールの裏側や舞台職員の業務を見学・体験することで、舞台機構や文化施設を身近に感じてもらうため、小学生親子を対象にバックステージツアーを実施した。

- ・日 時 令和3年11月20日（土）・21日（日） 13：30～16：00
- ・場 所 オルブライトホール
- ・参加者数 36人（子ども20人、保護者16人）
- ・協 力 キッズ・ハーモニーみやざき（合唱）、スターウィンド（合唱）

(8) 朗読劇「たかえ先生への手紙」

演劇を通して宮崎の魅力を発信するとともに舞台芸術の底辺拡大のため、本県出身で脚本・演出家の本田誠人さんが書き下ろした脚本により、宮崎の劇団員がキャストを務める朗読劇を実施した。

- ・日 時 令和3年12月12日（日） 13：00開場 14：00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出 演 者 濱崎 けい子、田代 剛、中野 弥生、伊藤 海、上杉 一馬、山口 紗嬉、黒木 厚介、関谷 玲光、日高 駿、岩本 紗歩
- ・入 場 料 指定席一般／前売2,000円（当日2,400円）
指定席学生／前売1,000円（当日1,200円）
- ・入場者数 224人 ※収容人数を制限

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止

- ・演芸笑タイム～宮崎！笑いの春一番～（令和4年2月19日）

3 自主事業

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、前年度から延期していた市民プラザ開館20周年記念事業を実施した。

(1) 開館20周年記念事業「オーケストラ・リクエストコンサート」

市民プラザの開館20周年を記念し、市民から募集した様々なジャンルのリクエスト曲を、豪華なゲストアーティストと宮崎のオーケストラで演奏するコンサートを実施した。

- ・日 時 令和3年11月14日（日） 14：00開場 15：00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出 演 者 小柳 ゆき（歌手）、木嶋 真優（ヴァイオリニスト）、MAKOTO（トランペッター）、井手 紗香（シンガーソングライター）、みやざきリクエストコンサート管弦楽団（管弦楽）、土田 浩（指揮）
- ・入 場 料 指定席一般／前売3,500円、指定席学生／前売2,000円
※前売券完売により当日券なし
- ・入場者数 352人 ※収容人数を制限

4 企画推進委員会

地域の文化芸術団体や文化NPO、マスコミや大学教授など11の方々に委員を委嘱し、様々なジャンルの団体との意見交換やヒアリング等により事業に対するニーズの把握に努めるとともに、市民プラザ主催事業の年間計画策定の参考となるご意見や助言等をいただける有意義な機会となった。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、第1回委員会については中止とした。

(1) 第1回委員会

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止

(2) 第2回委員会

- ・日 時 令和4年3月17日（木） 10：30～12：00
- ・場 所 市民プラザ 4階大会議室
- ・内 容 ①令和3年度市民プラザ主催事業の実施状況について
②令和4年度市民プラザ主催事業年間計画（案）について